

情報通信と符号化

韓 承鎬

電気通信大学

第五回目

MAP 受信機

最適判定基準

その際に送信されたデータ m と判定したデータ \hat{m} の誤り

$$P_e = \Pr\{m \neq \hat{m}\}$$

が最小となる判定ルールを最適判定とする。

- 判定ルール: $\hat{m} = g(\mathbf{r})$
 $g(\cdot)$ は受信信号 $\mathbf{r} \in \mathbb{R}^N$ から \mathcal{M} への関数
- 受信信号 \mathbf{r} が正しく判定される確率

$$1 - P_e = \Pr\{m = g(\mathbf{r})|\mathbf{r}\} = \int_{\mathbb{R}^N} \Pr\{m = g(\mathbf{r})|\mathbf{r}\} p(\mathbf{r}) d\mathbf{r}$$

判定の最適化

$$1 - P_e = \int_{\mathbb{R}^N} \Pr\{m = g(\mathbf{r})|\mathbf{r}\} p(\mathbf{r}) d\mathbf{r}$$

- 1 $p(\mathbf{r})$ は常に非負の値を取るので, $\Pr\{m = g(\mathbf{r})|\mathbf{r}\}$ がすべて最大となるのが最適判定
- 2 各受信信号 \mathbf{r} に対して確率 $\Pr\{m = \hat{m}|\mathbf{r}\}$ が最大となる \hat{m} を出力する関数 $g(\cdot)$ が最適判定ルール
- 3 Maximum a posteriori Probability (MAP) 受信機

$$g_{\text{opt}}(\mathbf{r}) = \operatorname{argmax}_{m \in \mathcal{M}} P_m p(\mathbf{r}|\mathbf{s}_m)$$

- 4 $P_m = 1/M$ の場合, Maximum Likelihood (ML) 受信機

$$g_{\text{opt}}(\mathbf{r}) = \operatorname{argmax}_{m \in \mathcal{M}} p(\mathbf{r}|\mathbf{s}_m)$$

複素数の確率密度関数

複素数の確率密度関数

確率変数 $Z = X + jY$ で, $X, Y \sim \mathcal{N}(0, \frac{N_0}{2})$ の場合,

- $X, Y \sim \mathcal{N}(0, \frac{N_0}{2})$

$$f_X(x) = f_Y(y) = \frac{1}{\sqrt{2\pi \frac{N_0}{2}}} \exp\left\{-\frac{x^2}{N_0}\right\} = \frac{1}{\sqrt{\pi N_0}} \exp\left\{-\frac{x^2}{N_0}\right\}$$

- X と Y は独立

$$\begin{aligned} f_Z(z) &= f_X(x)f_Y(y) = \frac{1}{\sqrt{\pi N_0}} \exp\left\{-\frac{x^2 + y^2}{N_0}\right\} \\ &= \frac{1}{\sqrt{\pi N_0}} \exp\left\{-\frac{|z|^2}{N_0}\right\} \end{aligned}$$

雑音ベクトルの確率密度関数

$\mathbf{n} = (n_0, n_1, \dots, n_{N-1})$ 分布

$$p(\mathbf{n}) = \left(\frac{1}{\sqrt{\pi N_0}} \right)^N e^{-\frac{\|\mathbf{n}\|^2}{N_0}}$$

AWGN での MAP 判定

■ 一般的な最適判定

$$\begin{aligned}\hat{m} &= \arg \max_{m \in \mathcal{M}} P_m p(\mathbf{r} | \mathbf{s}_m) \\ &= \arg \max_{m \in \mathcal{M}} \left\{ \frac{N_0}{2} \ln P_m - \frac{1}{2} \|\mathbf{s}_m\|^2 + \mathbf{r} \mathbf{s}_m^T \right\}\end{aligned}$$

■ $P_m = \frac{1}{M}$ の場合

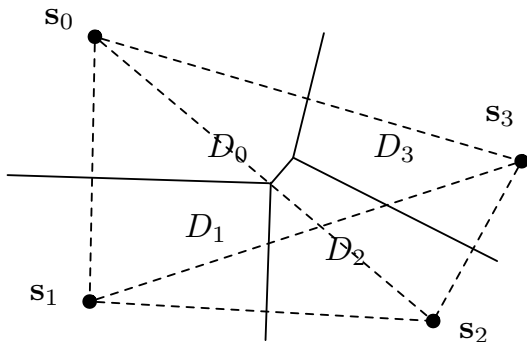
$$\begin{aligned}\hat{m} &= \arg \max_{m \in \mathcal{M}} \{-\|\mathbf{r} - \mathbf{s}_m\|^2\} \\ &= \arg \min_{m \in \mathcal{M}} \{\|\mathbf{r} - \mathbf{s}_m\|\}\end{aligned}$$

ML での最適判定領域

- 信号空間 R^N を M 個の領域 D_m , $m \in \mathcal{M}$, に分割
- 受信された信号が D_m に属す場合 m が送信されたと判定

判定境界

二つの信号点を結んだ直線を垂直に二分する直線



判定の例

送信ビット 0、1 に応じて、 $s_0 = [++]$ と $s_1 = [--]$ のベクトル形式の信号を送信した場合、AWGN 通信路での受信信号は

$$r = s_i + n, \quad i = 0, 1$$

で表されるが、雑音は $n = [n_1, n_2]$ 複素ガウス分布 $n_1, n_2 \sim \mathcal{CN}(0, \frac{1}{2})$ と仮定する。信号 $r = [0.3, -0.2]$ を受信した場合、

- 1 0,1 の送信確率がそれぞれ $P_0 = 0.4$, $P_1 = 0.6$ の場合、MAP 受信機で送信信号を判定せよ。
- 2 0,1 が同確率で送信された場合、0,1 の判定領域を画け。
- 3 ML 受信機で送信信号を判定せよ。

解答例 (1/2)

それぞれの事後確率 (s_i を送信した場合, r を受信する確率) は

$$p(\mathbf{r}|\mathbf{s}_0) = p_{\mathbf{n}}(\mathbf{r} - \mathbf{s}_0) = p_{\mathbf{n}}([0.7, -1.2]) = \frac{1}{\pi} e^{-0.7^2 - 1.2^2}$$

$$p(\mathbf{r}|\mathbf{s}_1) = p_{\mathbf{n}}(\mathbf{r} - \mathbf{s}_1) = p_{\mathbf{n}}([1.3, -0.8]) = \frac{1}{\pi} e^{-1.3^2 - 0.8^2}$$

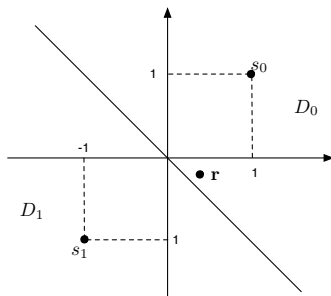
となり、

$$P_0 p(\mathbf{r}|\mathbf{s}_0) = \frac{0.4}{\pi} e^{-0.7^2 - 1.2^2} < P_1 p(\mathbf{r}|\mathbf{s}_1) = \frac{0.6}{\pi} e^{-1.3^2 - 0.8^2}$$

より, MAP 判定では送信データは 1 と判定する。

解答例 (2/2)

$r = [r_0, r_1]$ とし, r_0, r_1 を横軸と縦軸に取る。 $s_0 = [++]$ と $s_1 = [--]$ を結んだ線を直行で二分する線が判定境界となるので, 判定境界は次図で示した $r_1 = -r_0$ の直線となる。



受信信号 r は D_0 に含まれるので、ML 判定では送信データは 0 と判定する。

課題

送信ビット 0、1、2、3 に応じて、 $\mathbf{s}_0 = [++]$ と
 $\mathbf{s}_1 = [+ -], \mathbf{s}_2 = [- +], \mathbf{s}_3 = [- -]$ のベクトル形式の信号を送信し
 た場合、AWGN 通信路での受信信号は

$$\mathbf{r} = \mathbf{s}_i + \mathbf{n}, \quad i = 0, 1$$

で表されるが、雑音は $\mathbf{n} = [n_1, n_2]$ 複素ガウス分布
 $n_1, n_2 \sim \mathcal{CN}(0, \frac{1}{2})$ と仮定する。信号 $\mathbf{r} = [-0.7, 0.1]$ を受信した
 場合、

- 1 送信確率がそれぞれ $P_0 = 0.2, P_1 = 0.3, P_2 = 0.2, P_3 = 0.3$ の
 場合、MAP 受信機で送信信号を判定せよ。
- 2 同確率で送信された場合、信号の判定領域を画け。
- 3 ML 受信機で送信信号を判定せよ。